

フォーラム

「水を学ぶー地球の水、多摩の水」

日時：平成24年 **6月24日(日)** 午後1時45分～4時30分

会場：**武蔵野スイングホール** 11階レインボーサロンB
(JR中央線武蔵境駅北口1分 電話0422-54-1313)

参加費：東京雑学大学及び小金井雑学大学会員は無料、一般は500円
他に会員・一般ともに資料代100円

I アトラクション (1時45分～2時20分)

宮沢賢治の作品の語りと歌 …… 斎藤 禎範、斎藤 良子(賢治の会)
「雨ニモマケズ」「星めぐりの歌」
「稲作挿話」「よだかの星」



II 講演 (2時30分～4時30分)

1. 「地球は水で病んでいる」(河村 明 首都大学東京教授)

20世紀は石油争奪が原因で戦争が勃発したが、21世紀は水争奪が原因で戦争が発生すると言われています。世界各地で発生している複雑多岐にわたる水問題、そして水惑星地球の環境問題など、知らないでは済まされない水の常識・非常識について、そうだったのかという事実を興味深く紹介します。



2. 「多摩地方の河川と自由地下水」(角田 清美 専修大学など講師)

多摩地方を西から東方に貫流しているのは、「多摩川」と秋川や浅川などの支流です。自由地下水とは、重力によって地表面から地層内を下位に移動する地下水、すなわち「井戸水」です。地下水は降水の状態や滞水層によって異なり、地域性があります。台地上に分布する河川は、地下水の流動と滞水層に強く影響を受け、また残堀川や矢川は立川断層によって形成された河川です。

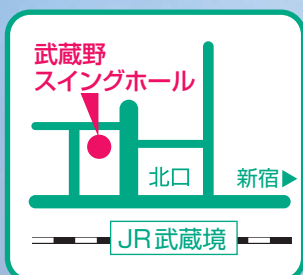


3. 「環境汚染の戦後史から市民による水環境再生の時代へ」(尾崎 寛直 東京経済大学准教授)

戦後急激に進行した都市型のライフスタイル及びそれを維持するための産業構造、資源利用の都市への一極集中は、水資源の過剰利用・枯渇を招き、水環境を変貌させてきました。21世紀は、脱工業化、「環境再生」の時代であり、市民が参加する「環境再生」の取り組みも交え、あらためて都市を支える水環境の意義について考えます。



会場地図



出演者プロフィール

■河村 明氏

1980年九州大学工学研究科博士課程修了、九州大学工学部助手・助教授を経て、2004年東京都立大学教授、現在首都大学教授。主な研究テーマは都市河川の洪水予測に関する研究、都市流域の水循環モデルに関する研究など。

■角田 清美氏

1970年駒沢大学文学部地理学科卒業。東京都立高等学校教諭を経て、2008年以降専修大学・法政大学・駒澤大学の各大学で非常勤講師。青梅市文化財保護指導員など。

■尾崎 寛直氏

長野県生まれ。東京農工大学農学部卒業。東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得。東京経済大学准教授。専門は環境政策、環境福祉論。公害を経験した各地の環境再生の研究プロジェクトに関わる。

主催：まなびの雑学実行委員会(NPO法人東京雑学大学・NPO法人小金井雑学大学)
助成：(公財)東京市町村自治調査会 多摩交流センター

問合せ：電話 0422-53-6673(事務局 須藤)、0422-52-0908(東京雑学大学 菅原)、080-5645-1477(小金井雑学大学 田中)